

創立50周年 記念資料



昭和38年製作の椅子

旭川市工芸センター

北の大地に育まれた「木と土」の

創成から次代へ・・・

刊行にあたり

旭川市工芸センターは、戦後復興期から高度成長期へ移り変わろうとする昭和30年4月、本市の基幹産業であります木工業界を支援する旭川市木工芸指導所として開設して以来、経済環境が大きく変化する中で幾多の変遷を経ながら、平成8年に現在地に移転し、新たな歴史を刻み始めております。

これまでの50余年の歩みは、常に新しい技術の出会いであり、飽くなき努力の積み重ねでありましたが、歴代職員の血と汗の結晶と関係者の方々の力強いご支援で、今日では「木の街」「家具の街」「工芸の街」「陶芸の街」として旭川の名を全国・全道に高めるまで発展してまいりました。

改めて関係各位の労苦に深く敬意と感謝を申し上げ、ここに先達の足跡を辿りその業績を次世代に伝えるため、この誌を刊行することにいたしました。

工芸センターのスタンスは、スタート当初と変わらず「産業と生活者」との間に立ち、その時々に必要な技術支援・技術開発を行い産業の発展に尽くすとともに生活者が安心して使える生活道具の提供を目指しております。

今、時代は大きな転換期を迎え、新しい価値の創造が求められておりますが、急速に進む技術革新に対応しつつ発展を遂げるためには「技術力・デザイン力」のある人材の育成が不可欠と考えております。

これまでの歴史を振り返り、私達は初心に立ち、地域産業発展のためにより一層の調査・研究・開発を行い、企業からの相談に適応する所存でありますので、今後とも皆様には格別のご指導とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

平成18年3月

旭川市商工観光部

旭川市工芸センター

目 次

- 沿 革 ----- 1 p ~ 1 1 p
・ あゆみ ・ 年表
- 現 況 ----- 1 2 p ~ 1 2 p
・ 組織 ・ 施設 ・ 主要設備
- 業 績 ----- 1 3 p ~ 3 1 p
・ 研究実験業務 ・ 製品開発状況 ・ 技術指導 ・ 実態調査
・ 研修会 ・ 講習会 ・ 展示会支援 ・ 依頼業務，機械使用
・ 技能五輪大会
- 職員の異動状況 ----- 3 2 p ~ 3 4 p
- 参考資料 ----- 3 5 p ~ 5 4 p
・ 写真 ・ 新聞等掲載記事



昭和35年10月完成



平成8年移転

第1部 沿革

1. 前史

(1)市立産業指導所の設置

旭川市における木工芸、窯業対策は遠く大正の初期にさかのぼり、当時は「工業研修生」という制度のもとに木工業の子弟を本州先進地に派遣し、技術を習得させ業界の進歩改善を図った。

昭和9年市立産業指導所（所在地・現在の6条9丁目右グランドホテル。主な事業は、木工、窯業、農産加工の各部門からなり、昭和18年廃止された）の設置により業界の指導が積極的に行なわれ業界発展に多大の貢献を果たしたが、第2次世界大戦の末期におよんで総力を戦争に集中したため、廃止せざるを得なくなり、ここに本市としては木工業界の指導機関を失うことになった。

(2)共同作業所の設置

終戦後の昭和23年10月失業対策の一環として設置を見た共同作業所は（昭和5年から市立公益質屋として使用していた建物80坪のものを転用したもので同28年8月組立工場21坪、更に31年4月事務室を増築）授産所的な役割を果たし木工技術を教えていた。

(3)木工芸指導所への転換運動

これから相前後してこの共同作業所を、木工芸指導所に転換させようとする運動が起こったのは、昭和27年頃からであり、協力会（当時の木工振興協力会）は、「旭川木工集団の理論」の中で、この木工芸指導所をとりあげこれまでの運動を一層強化して行なった。

2. 旭川市木工指導所の設立

昭和30年3月、旭川共同作業所は一応初期の目的を達成したので、これを廃止、同年4月念願の旭川市木工芸指導所の設立を実現させた。

このことと木工祭の成功（昭和30年第1回木工祭は市民会館で開催中の旭川商工会議所主催の日光博覧会の会場の一部を使い7月15日から開催）は木工業が旭川の基幹産業として重要な地位にあることを改めて認識させた。

(1)新庁舎の落成及び施設並びに機械設備の充実

市立木工芸指導所は、旭川木工振興協力会（昭和29年10月4日創立）の強い要望もあって次第に整備され昭和36年11月には、旭川木工集団地区の豊岡3条3丁目（旧東町3丁目）に新庁舎実験棟を

新築移転。

施設の概要として木材庫、木材乾燥室及び付帯設備、機械加工場、組立加工室、塗装室、接着室、研磨室などからなり、昭和37年木材庫、同39年には試験室の増築をした。

一方機械設備として、昭和35年国庫補助により木材乾燥装置など13台を設置、更に本市は同38年通商産業省から家具装備品製造業に対し中小企業指導法に基づいて政令指定市の指定を受け、技術指導施設費補助事業で機械設備として同年恒温恒湿設備など16台、同43年には、木材試験機など10台、更に同47年及び同49年には試験機器など14台を設置すると共に、一方道費・市費による機械設備も約40台を数え、総数約80台の設備がなされた。

同47年には関連業界の温かい御理解を得て工芸センター管理棟（当時の豊岡木工集団地内）が新築（事務室、ショールーム、研修室、開放試験室など）された。更に54年には所内にプロジェクトチームを編成し、業界の力強い発展と技術指導機関としての整備、充実の方向を明確にすべく、ビジョンの策定を行なった。同55年度、57年度には国庫補助を受け、塗装機器設備、刃物研磨機器などと、科学的指導研究を行なうため、試験機器（研削動力測定器、形状表面アラサ測定器など15台）を整備し、指導体制の強化を図った。

(2)窯業指導所の庁舎の落成と統合

一方窯業部門は、かつて産業指導所の一部門であったが、昭和21年1月1日旭川市窯業指導所として独立設置され、窯業業界の技術指導が再開された。

同24年窯業指導育成の強化を図るため、同指導所は常磐公園内に移転新築され施設設備の整備拡充がなされた。又同年4月には、道委託の窯業公共職業指導所が併設されたが、これは翌年3月2期生を卒業させて廃止された。その後常磐公園の整備が逐年進められ、又施設も狭隘となったことから、昭和42年7月豊岡3条3丁目の木工芸指導所敷地内に移設された、昭和51年本市の機構改革により、木工・窯業の両部門が統合されて、名称が「木工芸指導所」から「工芸指導所」に改められ窯業部門は窯業係となった。さらに同56年11月デザイン係と統合され開発研究係と改められた。

(3)道立工業試験場旭川分室

昭和38年道立工業試験場に於ては、旭川市内及び道北地区の木製品企業の技術振興を図るとの目的から、木工芸指導所に工芸部の旭川分室を設置したが、昭和47年に至り、この目的が達せられたとして分室を廃止した。

(4)第2次ソ連経済使節団に参加

ハバロフスク日本沿岸貿易見本市に出席する第2次ソ連経済使節団は、昭和45年7月4日旭川空港から出発、団長には市商工部長(当時)遠藤一成氏、木工芸指導所からは当時のデザイン係長竹沢秀夫氏が団員として参加、木製品に関する資料の収集を行なった。

(5)指導所拡充用地の確保

指導事業の幅そうに伴い施設全体が狭隘となり、この拡充を図るために用地として、昭和46年11月隣接地1,421m²を木材天然乾燥場として確保した。

(6)旭川リサーチセンター内への移転

移転に備え、新技術・製品開発等の試験研究設備の充実を図るとともに、業界のあらゆるニーズに対応するため、最新鋭の木工・窯業機械等を導入し、関係業界が利用しやすい設備を充実し、平成8年4月15日に現在地の旭川リサーチセンター内へ移転入居した。さらに平成10年には「ものづくり試作開発支援センター設備事業」(国庫補助)により、電子機器等を利用した高機能な機械設備等の整備を図り現在に至る。

その間、平成9年12月1日には「旭川市工芸指導所」から「旭川市工芸センター」に改称した。

旭川リサーチセンターを運営する、(株)旭川高度化センターは「北の生活文化産業の創造」をテーマに掲げ「情報とデザイン」をキーワードに「食品・アパレル・住宅・家具・機械金属」を対象業種として、衣・食・住に関わる生活関連産業の高度化を推進する機関である。

3. 年 表

旭川市工芸指導所の歩み	年 号 (年度・西暦)	関係業界の歩み
・市立木工芸指導所開設。 ・初代所長 松倉定雄氏、事務関係4名、技術関係13名により指導業務スタート。 ・木工芸指導所運営推進員懇話会発足。 ・本市で産業工芸試験所主催のグッドデザイン展開催。	昭和30年 (1955)	・旭川市木工芸指導所設立。 ・第1回旭川木工祭り、市立体育館にて開催(後の木工祭)。 ・第1回全道家具建具展開催。 ・第1回全国優良家具展(日本橋白木屋)にて熊坂工芸入賞。
・技術職員2名採用し、技術関係の強化が計られる。 ・木工芸指導所の充実強化につき業界代表20余名、市に陳情。	昭和31年 (1956)	・旭川物産展を札幌で開催、家具建具は好評を博す。 ・旭川建具事業協同組合設置。 ・あさひかわ陶芸会7月発足、9月に第1回会員展開催。
・国立研究機関主催の技術研修へ職員派遣。 ・公設研究機関の研究発表会に参加(仙台)。	昭和32年 (1957)	・旭川家具建具工業連合会発足。 ・旭川建具移出事業協同組合設立。 ・旭川家具建具連合会理事長 野田正光氏就任。 ・(社)旭川郷土民芸土産品協会設立。 ・旭川木工集団建設事業協同組合設立。 ・旭川家具工業協同組合設立。
・指導所の機構改革を行い事務係、技術係の2係とする。 ・全国初めての木工集団が東町3丁目(現在の豊岡3、4条3、4丁目)に造成。 ・板東国光(陶光)氏が旭川文化奨励賞を受賞。	昭和33年 (1958)	・第1回旭川郷土特産土産品展が市役所にて開催。 ・北海道工業試験場の窯業分室を工芸部より分離、野幌窯業分場として発足。

・指導所移転拡充のため、木工集団隣接地に用地買収（4,575.89㎡）。 ・千葉大学工業短期大学部木材工芸科より夏期実習生の受入れ。	昭和34年 (1959)	・第1回北海道特産旭川家具建具東北見本市（仙台市）。 ・旭川民芸土産品研究会設立。 ・旭川木工集団地へ移転開始（8社）。
・前年度買収した用地に木工芸指導所庁舎6月に着工、同年11月に実験棟782.1㎡と木材乾燥室63.52㎡が完成する。 ・第1回技術指導施設費補助事業費1,119万円で機械設備を設置（13台）。 ・技術職員6名が技術係に採用され、技術関係の強化を計られた。 ・板東国光（陶光）氏、旭川市窯業指導所所長に就任（昭和35年4月1日から昭和46年3月31日）。	昭和35年 (1960)	・旭川家具建具共同職業訓練所設置。 ・旭川建具移出事業協同組合、仙台に建具組立工場を建設。
・木工芸指導所5月に移転を開始し6月完了、8月落成式を挙行。 ・技術職員4名が技術係に採用され、更に強化を計られた。 ・業界中堅技術者と当所職員によるデザイン研究会の発足。	昭和36年 (1961)	・旭川家具事業協同組合設立、理事長末永与吉郎氏就任。 ・旭川建具事業協同組合設立、理事長小林一二氏就任。 ・熊坂工芸(株)吹上御殿に衝立献上。 ・第1回木彫り熊彫りコンクールの開催（第2回以降旭川木彫コンクール、11回以降旭川木彫技能競技会と名称変更し昭和61年迄開催）。 ・旭川木工集団地の造成・移転ほぼ完了（3年間で18企業移転完了）。
・中小企業団の公設試験研究機関対象の技術指導員養成研修に職員派遣。 ・道産小径木利用による、木材人工乾燥、ダボ構造、コッピングマシン利用による脚物家具の開発研究。 ・木材保管庫92.56㎡新築。 ・北海道家具建具工業協同組合連合会創立25周年記念式典にて、松倉所長が本道木工業界発展への功績により表彰される。	昭和37年 (1962)	・北海道建具協議会設立。 ・旭川青年会議所、道北道東の市場調査結果を公表、旭川木工品のシェアが高いことがわかる。 ・市の海外木工技術研修生として、小林正吾氏、川村勇氏、長原實氏を西ドイツに派遣。
・通商産業省より、家具装備品製造業に対し中小企業指導法に基づいて政令指定市の指定を受ける。 ・第2回技術指導施設費補助事業費900万円で機械設備設置（16台）。 ・道立工業試験場の旭川分室の指定を受ける（ワイドベルトサンダーなど4台設置）。 ・試験室の増築115.7㎡。 ・全国試験所作品展へ初参加。 ・板東国光氏が北海道第一期開発功労者（美術部門）で知事賞受賞。	昭和38年 (1963)	・旭川共同職業訓練センター発足。 ・旭川木製品工業技術振興会設立。 ・旭川木製品工業技術振興会主催によるデザイン講習会の実施（講師：日本木製品技術協会専務理事 鬼塚信之氏）。

・組立金具（埋込み有刺丸ナット）実用新案登録を申請受理された。 ・木製品業界中堅幹部従業員による、デザイン加工技術、塗装技術研究会の発足。 ・全国木工技術講習会を木工芸指導所、道立林産試験場等で開催。	昭和39年 (1964)	・旭川地方広葉樹事業協同組合設立。 ・新作展関連事業としてデザイン及び塗装技術講習会開催（講師：産業工芸試験所 榎田均氏、相沢正氏）。 ・第10回全国優良家具展にて上川木工が内閣総理大臣賞を受賞。 ・道立旭川職業訓練所新庁舎落成。
・木製品業界中堅幹部と当所職員による技術向上のため対話会の発足。 ・海外木工技術研修（西ドイツ）に当所職員を3年間派遣。 ・市青少年海外研修（西ドイツ）に当所職員を3年間派遣。	昭和40年 (1965)	・旭川アイヌ民芸品販売店協会設立。 ・西永山工業団地造成計画を発表。 ・旭川木工振興協力会長 岡音清次郎氏就任。 ・旭川建具事業協同組合理事長 三浦富蔵氏就任。
・ロクロ技術導入の為、当所職員を先進地に派遣研修。 ・木材乾燥用ボイラーの熱管理合理化及び安全管理向上によって、旭川地方労働基準協会より表彰を受ける。	昭和41年 (1966)	・協同組合旭川木工センター設立（永山木工団地）。 ・海外の木工業界視察（ヨーロッパ、ソ連、上原、伊羅子両氏）。
・技術部門の機構改革により、デザイン係、加工技術係の2係とする。 ・木製品業界の若年従業員を対象として技術研修会の開催。 ・第2代目所長として商工部長大方美正氏が兼務発令される（昭和42年11月1日～昭和43年4月30日）。 ・旭川窯業指導所が豊岡3条3丁目の工芸指導所敷地内に移転。	昭和42年 (1967)	・第16回技能五輪国際大会に桑原義彦氏（現、(株)匠工芸社長）出場2位入賞。 ・永山木工団地第1期工事着工、完成。 ・北海道郷土民芸品生産者協会設立。 ・遠藤乾蔵氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・第3代目所長として商工部長遠藤一成氏が兼務発令される（昭和43年5月1日～昭和44年1月13日）。 ・第3回技術指導施設費補助事業費600万円で機械設備設置（10台）。 ・コロンボ計画による海外研修生2名受入（シンガポール）。 ・木工芸指導所運営委員会が設置される。 ・第4代目所長工藤富雄氏就任する（昭和44年1月14日～昭和47年4月30日）。	昭和43年 (1968)	・旭川木工集団地10周年記念式典。 ・西ドイツに海外木工技術研修生2名派遣（野原寿二氏、阿部松夫氏）。 ・平塚賢智氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・北海道陶芸会が発足、初代会長 山岡三秋氏就任。
・旭川家具事業協同組合より、設備資金として113万円寄附を受ける。 ・初代所長松倉定雄氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・デザイン部門の技術指導のため、森谷延周氏に委嘱。	昭和44年 (1969)	・第18回技能五輪国際大会に吉田幸男氏（山室木工）出場5位入賞。 ・協同組合旭川木工センター総合落成式。 ・民芸木雕永年勤続優良従業員表彰制度発足。 ・西永山木工集団地完成。 ・「企業集団の倫理」出版（北島吉光氏が百瀬恵夫氏と共著）。 ・旭川民芸クラフト研究会設立。

・ハバロフスク経済視察団に当所職員参加し、木製品関係資料収集を行う（竹沢秀夫氏）。 ・中小企業団技術研修所の開催する事例研修に参加。 ・初代所長松倉定雄氏、卓越技能者労働大臣賞受賞（工芸部門）。 ・長期巡回技術指導及び木製品業界の実態調査始める（家具・建具・民芸）。 ・デザイン部門の技術指導のため、川上信二氏、今井慈氏に委嘱。	昭和45年 (1970)	・「旭川木工史」刊行。 ・第1回旭川秀作民芸品展（東京松坂屋）。 ・東海大学工芸短期大学建設に着工。 ・旭川民芸品振興連合会設立、会長平塚賢智氏就任。 ・第14回全国優良家具展にて、旭川より8社出展し全社入賞。
・木工芸指導所敷地拡充のため隣接地1,421m²を買収する。 ・当所敷地内に工芸センター管理棟（当時の豊岡木工集団地内）建設工事が始まる。 ・デザイン部門の技術指導のため、川上信二氏に委嘱（昭和51年度まで継続）。 ・板東国光（陶光）氏、旭川文化勲章を受賞。 ・高橋武志氏、旭川市窯業指導所所長に就任（昭和46年4月1日から昭和48年3月31日）。 ・第4回技術指導施設費補助事業費678万円で機械設備設置。 ・第5代目所長松木喜一郎氏就任する（昭和47年5月1日～昭和48年4月30日）。 ・道立工業試験場旭川分室の廃止。 ・全国公設試験研究機関工芸連合部会開催される。	昭和46年 (1971)	・第17回木工祭開催、拓銀会場は一般向け、市立体育館を本州向け会場として開催。 ・岡音清次郎氏、斉藤文雄氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・小野寺五郎氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・大和正幸氏、全国推奨観光土産品審査会（工芸の部）通産大臣賞を受賞。
・第5回技術指導施設費補助事業費740万円で機械設備を設置（2装置）。 ・第6代目所長浅香隆平氏就任する（昭和48年5月1日～昭和51年4月30日）。 ・第19回木工祭に参考出品した居間セット（エゾ松）が注目を受ける。	昭和47年 (1972)	・東海大学工芸短期大学開校（現北海道東海大学芸術工学部）。 ・旭川工芸センター落成式典。 ・そごう神戸店にて、旭川工芸展開催される。 ・第18回全国優良家具展において上川木工が名誉総裁賞を受賞。 ・多田博一氏、荒城良雄氏、三浦富蔵氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・旭川市主催の物産と観光ハワイ展に木製家具、民芸木彫品を出品する。 ・窯業部門の技術指導のため吉田時彦氏に委嘱。 ・木製玩具実用新案を登録出願する。	昭和48年 (1973)	・第22回技能五輪国際大会に大門巖氏（現、アートクラフト・パウ工房主宰）出場3位入賞。 ・第1回旭川家具東京フェスティバル（台東館）。 ・第1回旭川家具大阪見本市（OMMビル）。 ・井上秀一氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・木地挽物業組合設立。
・創立20周年記念誌発行する。 ・旭川の物産と観光ハワイ展、アメリカ家具ショー視察に当所職員2名派遣する。	昭和49年 (1974)	・旭川木工振興協力会20周年記念式典。 ・第1回旭川の物産と観光ハワイ展開催（ホノルル市）。 ・旭川郷土民芸品生産者協同組合設立。 ・平塚賢智氏が「現代の名工百人」に選ばれ、労働大臣表彰を受ける。
	昭和50年 (1975)	・全国優良家具展札幌にて開催。 ・アメリカ家具ショーに経済視察団派遣。 ・旭川家具事業協同組合内に、貿易部会設置。

旭川デザインシンポジウム開催に向け、事務局業務を実施。		- 旭川デザインシンポジウム開催。 - 第1回全国優良木工機械展開催（札幌）。 - 川上実氏，北海道産業貢献賞を受賞。
- 木工芸指導所と窯業指導所が統合し「工芸指導所」と名称を改める。 - 第7代目所長西野重夫氏就任する（昭和51年5月1日～昭和56年10月21日）。 - 輸出旭川家具品質基準の基礎資料を作成。	昭和51年 (1976)	- 木製建具分離発注事業始める（道営住宅）。 - アメリカ家具ショーに7社出品。 - 鈴木竜一氏，北海道産業貢献賞を受賞。 - 第1回木と手の小物展（旭川西武）。
- チュニジア駐日大使来所。 - 当所囑託デザイナー川上信二氏に代って秋岡芳夫氏に委嘱（昭和62年度まで継続）。	昭和52年 (1977)	- 旭川家具工業協同組合事務所開き。 - 家具業界において構造改善事業に着手（45社）。
- 当所使用料，手数料条例改正。 - 田中宏幸氏，市優良職員表彰受賞。 - 初代所長松倉定雄氏，勲六等単光旭日章を受章。 - 技術とデザインについて講習会を開催。	昭和53年 (1978)	- 第26回技能五輪国際大会に管野峰夫氏（山際家具）出場第6位入賞。 - 木製建具分離発注事業始める（市営住宅）。 - 東海大学工芸短期大学が北海道東海大学芸術学部昇格。 - 佐藤正実氏，北海道産業貢献賞受賞。
- 市機構改革により所長補佐制をもうける。 - 工芸指導所の現状と展望（ビジョン）の作成。	昭和54年 (1979)	- 第1回旭川窯元陶芸秀作展。 - 岡音清次郎氏，勲五等瑞宝章受章（上川木工）。 - 旭川木工振興協力会長大津忠雄氏就任。 - 北海道家具，サンフランシスコに出品（旭川8社，札幌2社）。 - 長原實氏，（社）日本インテリアデザイナー協会より1978年度協会賞を受賞。 - 熊坂公成氏，中町繁氏，北海道産業貢献賞を受賞。
- 第6回技術指導施設費補助事業費839万円で機械設備を設置（11台）。 - 中島進氏，北海道技能検定協会永年の功績により会長賞受賞。 - 旭川やきもの史刊行。	昭和55年 (1980)	- 旭川家具事業協同組合理事長 島口八百美氏就任。 - サンフランシスコに家具常設展示場開設。 - 第1回東京国際家具見本市が開催され，旭川から7社出品。 - 田村常七氏，北海道産業貢献賞を受賞。 - 米国西部の家具市場をテーマに（株）コスガ社長 小菅康正氏による講演。
- 市機構改革により，副所長制となり係名も変更される。 - 事務分掌の変更により，展示会，見本市等の開催業務が当所所管となる。 - 第8代目所長中島進氏就任する（昭和56年10月22日～平成5年3月31日）。	昭和56年 (1981)	- 旭川家具開発センター落成（永山2の10）。 - 旭川建具事業協同組合理事長 小林正吾氏就任。 - 平塚賢智氏，旭川市文化奨励賞受賞。 - 山室胤氏，勲五等瑞宝章を受章。
		- 地方産業デザイン開発推進事業の指定を受ける（木製家具）。 - 旭川建具事業協同組合出資金の増資（1,500万円）。 - 地場資源活用調査報告書作成。 - 第1回旭川家具木工美会展開催。

・第7回技術指導施設費補助事業費1,002万円 で機械設備の設置（4台）。 ・中国黒龍江省対外科学技術調査団一行来 所。	昭和57年 (1982)	・第1回旭川家具春の見本市開催。 ・旭川家具デザイン開発研究会設立。 ・関口勇氏，北海道産業貢献賞を受賞。 ・第28回旭川木工祭を家具開発センターで開 催。 ・旭川地区産業デザイン開発推進事業の展 開。 ・島口八百美氏，山口武三氏，北海道産業貢 献賞を受賞。 ・技能五輪国際大会に福島克定氏（山際家具） 出場。
・渡辺昇氏，関谷武氏，ミニフィンガー接合 法により，（社）日本木材加工技術協会から 木材加工技術賞を受賞。 ・国際協力事業団の要請により，海外研修生 受入れる（パラグアイ，1名）。	昭和58年 (1983)	・第1回北国の創作家具展。 ・旭川新人奨励賞技術部門で福島克定氏（匠 工芸）受賞。 ・旭川陶芸協会設立。 ・旭川地区産業デザイン開発推進事業成功裡 に終わる。 ・東京国際家具見本市視察のフィンランド視 察団一行が来旭，旭川家具業界と交流。 ・北島吉光氏，北海道産業貢献賞を受賞。
・渡辺昇氏，関谷武氏，市優良職員表彰受賞。 ・兼房刃物工業(株)より板谷精三氏を招い て，切削技術講習会を開催。	昭和59年 (1984)	・旭川家具事業協同組合解散し，旭川家具工 業協同組合に一本化される。 ・第21回技能五輪全国大会建具部門で福井敏 文氏（武山建具）2位に入賞。 ・旭川商品開発研究会が北海道東海大学教授 鈴木庄吾氏をアドバイザーに迎えて発足。 ・渡部虎蔵氏，北海道産業貢献賞を受賞。 ・長原實氏，第12回国井喜太郎産業工芸賞を 受賞。
・創立30周年を迎える。創立30周年記念誌を 発行する。 ・中小企業庁の技術指導費補助により，機械 設備の拡充を図る（2装置）。 ・学校用家具の開発に取り組む。	昭和60年 (1985)	・第1回旭川木工センター「家具の祭典」開 催。 ・北の手仕事展開催（旭川西武）。 ・「旭川家具工業の課題と提言」出版（鈴木 庄吾氏監修）。 ・岡音忠一氏，北海道産業貢献賞受賞。
・木の高度利用推進研究会設立。 ・木の高度利用推進研究会報告提言。 ・建具技術講習会にて土屋ホーム(株)社長土 屋公三氏を招いて講演会を開催。	昭和61年 (1986)	・中小企業大学校旭川校開校。 ・平塚賢智氏，春の叙勲で黄綬褒章を受章。 ・第1回旭川の木彫と工芸展開催。 ・佐藤賢一氏，戸田秀国氏，北海道産業貢献 賞を受賞。 ・島口八百美氏が「現代の名工百人」に選ば れ，労働大臣表彰を受ける。 ・旭川国際デザインフォーラム開催。 ・(協)旭川木工センター創立20周年記念式 典。

・輸出デザイン検査認定代行を旭川市が受託。 ・中小企業庁の技術指導費補助により、CAD／CAMシステムを導入。 ・国際協力事業団の要請により、海外研修生を受け入れる（パラグアイ、1名）。 ・デザイン部門の技術指導のため、納賀雄嗣氏に委嘱（昭和63年度まで継続）。	昭和62年 (1987)	・技能五輪国際大会に小林守氏（匠工芸）出場7位入賞。 ・「箱で考えるーあそびの木箱'87」展開催（旭川美術館）。 ・旭川家具商品開発研究会が地方振興奨励道費補助を受けたAV機器収納ファニチャーの研究成果を発表。 ・旭川木のクラフト展開催（丸善日本橋店ギャラリー）。 ・西脇伸一氏、富田和信氏、飛澤野芳世氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・当所試作品を広く市民に販売。 ・高齢者用家具の開発を開始する。 ・CAD関係の技術開発に取り組む。 ・デザイン部門の技術指導のため、神戸憲治氏に委嘱（平成8年度まで継続）。	昭和63年 (1988)	・MAKROS'88北海道家具展開催（大雪アリーナ）。 ・北島吉光氏、北海道新聞文化賞を受賞。 ・国際デザインフォーラム旭川'88 SPIRIT OF DESIGNがインテリアセンター本社にて開催。 ・旭川工芸デザイン協会設立。 ・小林正吾氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・旭川木工集団事業（協）創立30周年記念式典。
・高齢者用家具の試作品を木工祭に参考出品し、注目を集める。 ・市の機構改革に伴い、事業係・技術係・開発研究係の3係が、事業係と技術開発係の2係制となる。	平成元年 (1989)	・旭川工芸デザイン協会設立展（旭川西武）。 ・サマーエンドフェスティバル開催（道立林産試験場）。 ・菊池務氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・建具技術の小物生産物への利用研究を開始。 ・デザインフェアにおいて「在来技術と先端技術」「クラフトマンシップ」等をテーマに参考展示をする。	平成2年 (1990)	・国際家具デザインフェア旭川'90開催（第1回）。 ・旭川'90クラフト展開催。 ・三浦富蔵氏、秋の叙勲で黄綬褒章を受章。
・'90国際家具デザインコンペの入賞作品を当所に常設展示。 ・家具強度試験器の導入。 ・業界の意見を聞く会の開催。 ・溶射技術の活用研究を開始。	平成3年 (1991)	・「旭川家具5・5計画」発信。 ・頭脳立地構想推進地域として旭川が指定を受ける。 ・織田コレクション「チェアーズギャラリー」開設。 ・横幕誉氏、北海道産業貢献賞を受賞。 ・平塚賢智氏、勲六等瑞宝章を受章。
・室内木製建具の気密性に関する研究を開始。 ・中小企業庁の技術指導施設費補助により、CAD／CAMシステムの増強とCGシステムの導入。	平成4年 (1992)	・デザインワークショップ成果報告会開催。
・木製家具品質基準作成委員会が旭川で開催される。 ・デザインフェアにおいて北海道東海大学、	平成5年 (1993)	・旭川家具工業協同組合オフィス部会、ヨーロッパ先進国視察。 ・国際家具デザインフェア旭川'93開催（第2

旭川家具商品開発研究会とともに参考出品する。 ・特定中小企業集積活性化支援事業（関連機関支援事業）が開始される。 ・第9代目所長植山尚有氏就任する（平成5年4月1日～平成7年3月31日）。		回）。 ・旭川'93クラフト展開催。 ・特定中小企業集積活性化支援事業開始。 ・島口八百美氏、勲六等瑞宝章を受章。
・塚田堂鬼氏を迎えて商品開発講座を開催。 ・道内施設、設備の調査を実施。	平成6年 (1994)	・旭川家具活性化セミナー開催。 ・ノックダウン研究会にて講習会開催。 ・東川町開拓100年記念陶芸展。 ・長原實氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・第10代目所長九軒勝志就任する（平成7年4月1日～平成10年3月31日）。 ・当所移転に向け準備。 ・北海道地域工業技術開放試験施設整備事業費補助により、試験機器の充実を図る。	平成7年 (1995)	・道北陶芸フェスティバル開催。 ・旭川リサーチセンター着工。 ・家具の耐震安全性に関する講習会が、家具組合の主催により開催。
・工芸指導所、機器充実し旭川リサーチセンター内へ移転、業務開始。 ・国際家具デザインフェア旭川'96コンペティション応募作品「HAT BENCH」入選。 ・及川俊樹氏、市優良職員表彰受賞。 ・北海道地域工業技術開放試験施設整備事業費補助により、試験機器の充実を図る。 ・道内窯業原料調査（十勝地区粘土）（～9年度継続）。 ・木村正紀氏、中小企業長官賞を受賞。	平成8年 (1996)	・旭川産業高度化センタービルオープン。 ・国際家具デザインフェア旭川'96開催（第3回）。 ・旭川'96クラフト展開催。 ・'96あさひかわ工業展開催。 ・道立旭川高等技術専門学院が西神楽4-5（現緑が丘東3条2丁目）に新築落成と創立50周年を迎える。 ・笹原竹一氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・名称を「旭川市工芸センター」に改称。 ・空間の有効利用家具開発の研修会。 ・ガラスカレットの利用研究（技術動向・資料収集調査）。 ・橋本高知県知事来所。	平成9年 (1997)	・デザインギャラリー開設（北の風南の風クラフト展'97開催）。 ・旭川やきもの協会設立。 ・旭川陶芸フェスティバル開催。 ・澤田富治氏、北海道産業貢献賞を受賞。
・第11代目所長岩田和視就任（平成10年4月1日～平成14年3月31日）。 ・製品開発への光造形技術応用研修会。 ・新JIS規格に準拠した椅子の強度試験方法研修会。 ・「ものづくり試作開発支援センター設備事業」により高度な試作・研究開発に利用できる設備・装置類の整備（炭酸ガスレーザ彫刻システム、ワイドベルトサンダー他6設備）。	平成10年 (1998)	・「旭川のクラフト展」が東京日本橋高島屋にて開催。 ・道立林産試験場で「木のグランドフェア」開催。 ・織田憲嗣氏の椅子常設展示場、デザインギャラリーで発足。
・前年度に導入した炭酸ガスレーザ彫刻システム利活用研修会の開催。 ・光造形システム利活用研修会の開催。 ・堀北海道知事来所。	平成11年 (1999)	・国際家具デザインフェア旭川'99開催（第4回）。 ・「旭川クラフト」旭川企業10社が東京インターナショナル・ギフト・ショーに出展。 ・「木彫り熊源流展」道内の名作150点展示、デザインギャラリーにて開催。

・光造形技術研究会セミナーの開催。 ・炭酸ガスレーザー彫刻システム利活用研修会の開催。	平成12年 (2000)	・(株)インテリアセンター(現,(株)カンディハウス)国土庁から「地域活性化貢献企業賞」受賞。 ・旭川家具単独での「旭川EVOLUTIO 2000 in 東京」を大田区産業プラザで企業20社により開催。 ・旭川工芸デザイン協会展, デザインギャラリーで開催。 ・旭川匠の技工芸展の開催。 ・木材, 家具業界不況深刻化閉業相次ぐ。 ・旭川建具事業協同組合の「高齢者向け引戸建具」が第34回全国建具展示会において「優秀作品賞」受賞。
・化学物質過敏症講習会の開催(接着剤・塗装に含まれる有害物質に関する講習会)。 ・旭川クラフト業界の今後の方向性及び対策についての報告会。	平成13年 (2001)	・旭川家具工業協同組合が「旭川家具経営塾」を開催。 ・旭川工芸デザイン協会展in FUMIKI(サンフランシスコ)初の海外展。 ・(株)匠工芸, 家具シリーズ「ウィーヴ」グッドデザイン賞受賞。 ・旭川家具工業協同組合主催で, 旭川家具, クラフトの展示会「旭川家具横浜展2001」を開催。
・第12代目所長山田克己就任(平成14年4月1日から現在に至る)。 ・耐圧分布測定システム導入(特定中小企業集積活性化事業)。 ・マーケティングに関する研究。 ・国際協力事業団の依頼により, 国際研修生(マレーシア, 1名)約2ヶ月間を受け入れる。	平成14年 (2002)	・国際家具デザインフェア旭川2002開催(第5回)。 ・北海道立北方建築総合研究所(旧寒地研)旭川市へ移転。 ・ANIC旭川家具新作展が50回目を迎える。 ・「こんな家具ほしいプロジェクト」による一般女性からの募集開始, 試作品発表。
・「旭川家具のコーディネート展示」を旭川家具横浜展において実施。 ・窯業受入れ研修, 釉薬基礎研修。	平成15年 (2003)	・改正建築基準法施行により, 室内環境配慮で業界が統一表示を導入。 ・旭川家具工業協同組合(7社)が世界最大級家具見本市「ミラノ・サローネ」に初出展。
・新商品開発, 既存商品のリ・デザイン等の新商品開発指導(小家具・小木工企業デザインパイロット事業)。 ・繰返し耐久性試験機の開発作製(JIS及び国内の家具関連各規格の扉・引出し等耐久性試験対応)及び説明会。	平成16年 (2004)	・'04あさひかわ工業技術交流会。 ・建具業界木の創造会(4社)による新商品開発発表「障子創造展」を開催。 ・旭川家具木工祭MAKROSが50回目を迎える。
・旭川木彫りの源流展開催。 ・技術開発係, 一階事務室で執務開始。	平成17年 (2005)	・国際家具デザインフェア旭川2005開催(第6回)。 ・旭川クラフト展開催。 ・旭川工芸デザイン協会展が横浜で開催, インテリアフェスタ(主催(株)カンディハウ

		ス横浜店) に協賛事業展示。 ・(社)全家工連主催で初の国産家具の主産地が集まり「にっぽんらいふ展」を横浜で開催，旭川家具企業21社，建具企業4社出展。 ・ケルン国際家具見本市へ出展（10作品）
--	--	---

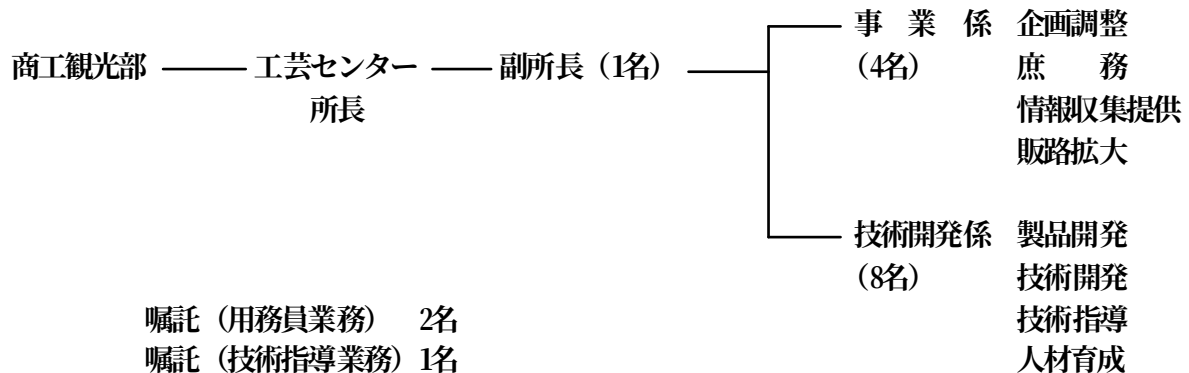


旭川木彫りの源流展

第2部 現 況

1 組 織

機 構 1課2係 17名



2 施 設

位 置 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

敷地面積 10,315.70 m²

延床面積 5,520.905m² (内工芸センター 1,900.55m²)

(内 訳)

事務室	101.13m ²	塗装室	55.00m ²	製品試験室	55.14m ²
ミーティング室	33.94m ²	木材乾燥スペース	65.02m ²	企画開発室	67.06m ²
技術開発室	203.40m ²	接着・金工室	70.84m ²	コンピュータ室	66.30m ²
機械加工室	363.93m ²	集塵機	56.60m ²	会議室	79.46m ²
合板庫	30.60m ²	窯業研究室	192.69m ²	ショールーム	163.61m ²
資材庫	96.00m ²	材料試験室	50.05m ²	その他	149.78m ²

3 主要設備

<試験研究用機器>

- ・ CAD/CAMシステム
- ・ CGシステム
- ・ 動・静歪測定器
- ・ 5軸制御NCレータ実験機
- ・ 各種記録計
- ・ 家具強度試験器
- ・ 木材乾燥試験器
- ・ 耐圧分布測定システム
- ・ 恒温恒湿環境試験器
- ・ 材料接合部強度試験機
- ・ 耐光性試験器
- ・ UV塗装乾燥実験炉
- ・ 形状アラサ測定器
- ・ 振動試験装置

<加工機器>

- ・ 各種汎用木工機器
- ・ フレキシブルコールドプレス
- ・ 側圧付コールドプレス
- ・ ワイドベルトサンダー
- ・ カットボーリング面取機械
- ・ 塗装用クリーンブース
- ・ 高周波発振機
- ・ 炭酸ガスレーザ彫刻システム
- ・ 木工用ロクロ
- ・ 刃物研磨機
- ・ 金工用旋盤

<窯業用機器>

- ・ 真空土練機
- ・ ボールミル
- ・ ポットミル
- ・ フィルタープレス
- ・ 電動タタラ板製造器
- ・ 電動ロクロ
- ・ 機械ロクロ
- ・ 電気窯
- ・ ガス窯
- ・ 上蓋式電気炉
- ・ ガス炉実験機
- ・ 耐火度試験器
- ・ 熱機械分析装置

(平成18年2月現在)

第3部 業 績

1. 研究実験業務

年号(西暦)	研 究 実 験 業 務
昭和30年度 (1955)	・ 量産加工に関する研究 ・ ロールコアー合板の実用に関する研究 ・ 道産材（ニレ，ナラ）の高度化利用に関する研究
昭和31年度 (1956)	・ 量産加工に関する研究 ・ ロールコアー合板の実用に関する研究 ・ 道産材（ニレ，ナラ）の高度化利用に関する研究
昭和32年度 (1957)	・ 量産加工に関する研究 ・ ロールコアー合板の実用に関する研究 ・ 道産材（ニレ，ナラ）の高度化利用に関する研究
昭和33年度 (1958)	・ 量産加工に関する研究 ・ ロールコアー合板の実用に関する研究 ・ 尿素樹脂接着剤の増量剤に関する研究 ・ 塗膜の補修に関する研究 ・ 組立式木製家具の試作研究
昭和34年度 (1959)	・ 量産加工に関する研究（部品加工に関する研究） ・ パーティクルボードの実用に関する研究 ・ 酢ビ系樹脂接着剤の実用に関する研究 ・ 塗膜の補修に関する研究
昭和35年度 (1960)	・ 道産材（ナラ，ニレ，タモ）の高度化利用に関する研究 ・ 水性着色剤の耐候性に関する研究 ・ オイル塗装仕上に関する研究
昭和36年度 (1961)	・ 木製品のダボ接合法に関する研究 ・ 木材人工乾燥に関する研究 ・ 道産材（ナラ材の小径木）の高度化利用に関する研究 ・ コッピングマシン利用による試作研究 ・ 建具下地塗料の改善に関する研究
昭和37年度 (1962)	・ 成型合板による家具の試作研究 ・ コッピングマシン利用による試作研究 ・ 組立用金具の開発研究 ・ 含浸紙によるメラニン樹脂板の製造試作 ・ 着色剤に関する調査研究
昭和38年度 (1963)	・ 組立用金具の開発研究 ・ 成型合板による家具の試作研究 ・ ユニット家具の試作研究 ・ 塗装仕上げに関する調査研究 ・ リビング家具に関する試作研究
昭和39年度 (1964)	・ 接合部の強度と作業性に関する研究 (楕円柄及び平柄構造について) ・ 接着剤の性能に関する研究 (寒冷地における接着剤の性能について) ・ 研削仕上に関する研究

昭和40年度 (1965)	・ 塗膜ワレ試験法に関する研究 ・ 塗装仕上に関する調査研究 ・ リビング及びダイニング家具に関する試作研究 ・ パネル構造の変歪に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 ・ 塗膜ワレ試験法に関する研究 ・ ノックダウン家具の試作研究 ・ ダイニング家具に関する試作研究
昭和41年度 (1966)	・ パネル構造の変歪に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (樹種別天然乾燥) ・ 木材含水率の実態調査 (第1回) ・ ポリエステル塗装における“銀目”の発生原因に関する研究 ・ 学童用家具に関する試作研究
昭和42年度 (1967)	・ 椅子の強度設計に関する研究Ⅰ ・ 小木工品の加工技術開発に関する研究 ・ 木材含水率の実態調査 (第2回) ・ 着色剤の耐光性に関する研究 ・ 化粧紙の接着に関する研究 ・ フィンガージョイントの刃物試作実験 ・ 塗装機器及び塗装法に関する調査 ・ リビング及びダイニング家具に関する試作研究
昭和43年度 (1968)	・ 椅子の強度設計に関する研究Ⅱ (ダボおよび楕円柄の接合効率について) ・ 着色剤の耐光性に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (アガチス材) ・ 天乾材の期間別含水率の測定 ・ リビング家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和44年度 (1969)	・ 椅子の強度設計に関する試作研究Ⅲ ・ 加工精度に関する研究 ・ コッピングマシンのモデル倍率に関する研究 ・ 木材乾燥に関する研究 (木材の材芯温度について) ・ 刃物の硬度に関する研究 ・ 着色剤による標準色作成に関する研究 ・ 育児用家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和45年度 (1970)	・ 椅子の強度設計に関する研究Ⅳ (局部構造の解析について) ・ 接着作業標準設定に関する研究 ・ 成型合板の変歪に関する研究 ・ 加工精度に関する調査研究 ・ 着色剤による標準色作成に関する研究 ・ アイヌ紋様塗装に関する研究 ・ 遊具に関する試作研究 ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究
昭和46年度 (1971)	・ パーティクルボードの接合法に関する研究 ・ 接着作業標準設定に関する研究 ・ 道産材による小木工品の試作研究

	・ 育児用具に関する試作研究 ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究
昭和47年度 (1972)	・ 接着作業標準設定に関する研究（速乾型接着剤について） ・ 木材着色に関する研究（道産材の薬品着色について） ・ 塗膜の物理的性質に関する研究（塗膜性能分析について） ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和48年度 (1973)	・ 商品性能分析に関する研究（市販木製椅子の耐力について） ・ 切削作業標準設定に関する研究（ルーター切削加工条件について） ・ 接着作業標準設定に関する研究（面材接着作業条件について） ・ パネル構造に関する研究（木質複合パネルの変歪について） ・ α-オレフィン系接着剤の実用に関する研究 ・ 木材着色に関する研究（針葉樹材の着色について） ・ 塗料および接着剤の供給状況実態調査 ・ 各種機械設備の稼働分析に関する研究 ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小物家具開発に関する試作研究 ・ 建具用パターンに関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和49年度 (1974)	・ 木材乾燥スピード化に関する研究（減圧乾燥について） ・ 切削作業標準設定に関する研究（鋸断切削加工条件について） ・ 木材着色に関する研究（道産材の万能着色について） ・ 商品性能分析に関する研究（静的荷重と動的荷重による相関性について） ・ 成型合板の性能に関する研究 ・ リビング・ダイニング家具に関する試作研究 ・ 小物家具開発に関する試作研究 ・ 小木工品開発に関する試作研究
昭和50年度 (1975)	・ 木材乾燥のスピード化に関する研究（減圧乾燥） ・ 商品性能分析に関する基礎的研究（接合部の耐力） ・ 切削条件に関する基礎的研究 ・ 塗装技術に関する基礎的研究（薄塗り塗装） ・ 製品開発に関する研究（家具、小木工品） ・ 高温蒸煮材の曲げ強度に関する研究
昭和51年度 (1976)	・ 減圧乾燥器による木材乾燥のスピード化に関する研究 ・ 切削条件に関する研究 ・ 性能分析に関する研究 ・ 接着技術に関する研究（機械接着） ・ 技術開発に関する研究（ミニフィンガー接合） ・ 塗装技術に関する研究 ・ 火山灰添加による素地改良に関する研究 ・ 植木鉢の低温焼成釉に関する研究 ・ 素地表面化粧に関する研究
昭和52年度 (1977)	・ 研削作業に関する基礎的研究 ・ ミニフィンガージョイント工法に関する研究 ・ 製品開発に関する研究 ・ 製品性能分析に関する研究（引き出し構造）

昭和53年度 (1978)	・ 製品開発に関する研究 ・ 浄水スラッジ資源化に関する研究（陶管製造技術を利用した製品開発）
昭和54年度 (1979)	・ ミニフィンガージョイント工法に関する研究 ・ 未利用材の高度利用に関する研究 ・ 製品性能に関する研究 ・ 標準作業設定に関する研究（研削条件工程管理） ・ 各種組手構造に関する研究 ・ 釉薬原料の応用研究（パーク灰の釉薬原料への利用化） ・ 樹脂石こう利用技術開発に関する研究
昭和55年度 (1980)	・ 新製品開発に関する研究（家具・建具・民芸） ・ 製品性能に関する研究 ・ 未利用材の高度利用に関する研究 ・ 曲面研削に関する研究 ・ 接合構造及び治具に関する研究 ・ 新製品開発に関する研究 ・ 技術開発に関する研究 ・ 花崗岩釉の研究（花崗岩屑の釉薬原料への活用）
昭和56年度 (1981)	・ 新製品開発に関する研究（家具・小木工品） ・ 曲面研削に関する研究 ・ 木材着色に関する研究 ・ カラマツ材の利用技術に関する研究 ・ 異種材の接着と装飾加工に関する研究 ・ 旋削技術と変歪に関する研究 ・ 接合技術の利用と治工具の開発に関する研究 ・ 製品性能に関する研究 ・ ホルムアルデヒドの放散防止に関する研究 ・ 新製品開発に関する研究（窯業） ・ 電気炉による焼成方法の研究 ・ 花崗岩釉の研究（花崗岩屑による着色釉薬の開発）
昭和57年度 (1982)	・ 新製品開発の研究（リビング・ダイニング，和室家具・建具，デスクウェア，和食器セット） ・ 曲面研削

	・ 木材着色 ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ カラマツ材の利用技術 ・ 製品性能分析 ・ ホルムアルデヒドの放散防止 ・ マイコンプログラム開発の研究 ・ 装飾加工技術に関する研究 ・ 高周波利用による木材乾燥 ・ 曲面切削・旋削における作業標準化 ・ 灰釉の利用研究 ・ 鑄込成形に関する研究
昭和58年度 (1983)	・ 製品開発の研究（リビング・ダイニングテーブルウェア，コーヒー茶碗セット） ・ 曲面研削 ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ 製品塗膜の品質基準設定 ・ カラマツ材の利用技術 ・ マイコンプログラム開発の研究 ・ 曲面切削に関する研究 ・ 灰釉の利用研究 ・ 鑄込みによる壁面スタイル研究
昭和59年度 (1984)	・ 製品開発の研究（リビング・ダイニング，建具，テーブルウェア） ・ ベルトサンダーに関する研究 ・ 製品塗膜の品質基準設定 ・ カラマツ材の利用研究 ・ 曲面切削に関する研究 ・ 旋削技術に関する研究 ・ 装飾加工技術に関する応用研究 ・ 火山灰釉に関する研究（台場火山灰による青磁釉の研究）
昭和60年度 (1985)	・ 道産材活用による製品開発研究 ・ 学校用家具開発 ・ リビング・ダイニング用家具開発 ・ パーソナルギフト商品の開発 ・ 耐熱食器に関する研究 ・ 火山灰釉に関する研究（台場火山灰によるマット釉の研究）
昭和61年度 (1986)	・ 道産材活用による製品開発研究 ・ オフィス家具の開発 ・ リビング・ダイニング家具の開発 ・ テーブルウェアの商品開発 ・ デスクウェアの商品開発 ・ 装飾技法に関する研究（練込み紋様，浮彫紋様，化粧土吹付） ・ 火山灰釉に関する研究（台場火山灰による鉄釉の研究）
昭和62年度 (1987)	・ 道産材活用による製品開発研究 ・ 収納家具の開発 ・ ロビーの空間の演出「市役所ロビーに設置」 ・ 和の生活空間で使用する道具の開発 ・ 装飾技法を用いた製品開発

昭和63年度 (1988)	・ 火山灰釉に関する研究（台場火山灰による鉄釉の研究） ・ 道産材活用による製品開発研究 〔・ 高齢者用家具の開発 〔・ 小径木を利用した小木工品の開発 ・ CAD技術開発に関する研究 〔・ 2次元CADシステムの「収納システム家具」設計への応用例 〔・ 3次元CADの製品開発への利用 ・ 高温・高風による木材乾燥の研究 〔・ ナラ小中径材の適性乾燥スケジュールの設定 ・ 接着・接合技術に関する研究 (ダボ孔の加工条件, ダボの加工条件, 接着剤の種類) ・ 小物製品に建具技術を用いた商品開発 ・ チタン結晶釉に関する研究 ・ 地元原料の配合研究
平成元年度 (1989)	・ 道産材活用による製品開発研究 〔・ 高齢者用家具の開発 ・ ギフト商品の開発 ・ CAD技術開発に関する研究 〔・ 2次元CADシステムの「ユニット家具」設計, 積算への応用例 〔・ 3次元CADの設計, 生産への利用 ・ 木材乾燥に関する研究 〔・ ホワイトオーク材の乾燥スケジュールの設定 ・ 接着・接合技術に関する研究 (前年度得られた性能を現場で維持するための作業条件の検討) ・ 小物製品への建具技術の利用研究 〔・ 組子パターンの曲面化 〔・ 組子の2次機械加工化 〔・ 組子の形状や面形状の変化及び接手手法 ・ チタン結晶釉に関する研究 ・ 地元原料の配合研究
平成2年度 (1990)	・ 高齢者用家具の開発（リビング用, ダイニング用として共用できる家具） ・ パーティ用器の開発 ・ CAD利用技術に関する研究 〔・ 3次元CADシステムの設計, 生産への利用 ・ 小物製品への建具技術の利用研究 〔・ インテリア関連製品の開発 ・ 椅子の生産に関する研究 ・ 鉄赤釉に関する研究 ・ 溶射技術の活用研究
平成3年度 (1991)	・ 家具の開発 〔・ リビングファニチャー ・ 小木工品の開発研究 〔・ 新商品開発と流通開発を通じて将来の小木工市場の検討 ・ 建具技術利用による製品開発 ・ スプリング加工をモチーフとしたインテリア関連商品の開発 ・ 鉄赤釉に関する研究

平成4年度 (1992)	・ 溶射技術の活用研究 ・ 小木工品の開発研究 〔・ 産地イメージ商品の検討 ・ CAD利用技術に関する研究 〔・ 「利用しやすいシステム」の研究開発 ・ 曲面部材の加工技術に関する研究 ・ 室内木製建具の気密性に関する研究 ・ 油滴天目釉に関する基礎研究 ・ 産地原料の配合研究
平成5年度 (1993)	・ 動作メカの開発研究 〔・ 可動式間仕切りカウンターテーブルの開発 ・ 曲面部材の加工技術に関する研究 〔・ 材料歩留り向上 〔・ 接合箇所の減少 〔・ 製品の軽量化等の有効性 ・ 椅子の製品開発研究 〔・ 割りクサビによる接合面積の拡大 〔・ 成型合板の弾力性活用 〔・ アルミ板との複合接着による軽減化 〔・ 寄せ木細工の活用 〔・ 薄型合板によるロックダウン機構 〔・ 曲げ木技術の活用 ・ 油滴天目釉に関する研究
平成6年度 (1994)	・ 建築に付随する家具の開発 ・ CAD/CAM, CG利用技術開発に関する研究 〔・ CADを利用したNCデータ編集システムの開発研究 〔・ NCデータの3次元CAD図形データへの変換システムの開発研究 〔・ 3次元CADの有するNC機能の利活用を進めた研究 ・ 異機種CADデータ変換システムの開発研究 ・ 曲面部材の加工技術に関する研究 〔・ 歩留り及び接合強度の向上 〔・ 曲げ木変形量の把握 〔・ 曲げ木前の加工限界の追求 〔・ 木材と異種材の接着剤性能の把握 〔・ 曲面部材を接着接合する圧縮機械の開発 ・ 釉薬原料の活用研究
平成7年度 (1995)	・ CAD/CAM, CG利用技術開発に関する研究 〔・ CG形状データのCAD図形データへの変換プログラムの開発研究 ・ 3次元CADの有するNC機能の利活用を進めるための研究 ・ 多品種少量生産における省力化システムの開発研究 ・ 釉薬原料の活用研究
平成8年度 (1996)	・ 家庭用屋外家具の開発研究 ・ 高齢者にやさしいインテリアの研究 ・ 子供用家具の開発研究 ・ 空間の有効利用家具開発 ・ 釉薬原料の活用研究

平成9年度 (1997)	・ CAD/CAM, CGの利用技術研究 ・ 家具の振動試験に関する研究 ・ ガラスカレットの利用研究 (技術動向・資料収集調査) ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 家庭用屋外家具の開発研究 ・ 子供用家具の開発研究 ・ 椅子の開発研究
平成10年度 (1998)	・ CAD/CAM, CGの利用技術研究 ・ ガラスカレットの利用研究 (産学官共同開発事業) ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 新素材を利用した家具開発研究 ・ 空間の有効利用家具開発研究 ・ 箱物家具の開発研究 ・ 旭川家具ブランド利用普及事業: 市第一応接室のリニューアル
平成11年度 (1999)	・ 旭川家具ブランド利用普及事業: 空港ベンチの開発 ・ 光造形システムの利用技術研究 ・ 新素材を利用した家具開発 ・ 高齢者に対応する生活道具の開発研究 ・ 学校給食用磁器食器の試作研究
平成12年度 (2000)	・ 公共空間の家具開発 (福祉介護施設) ・ 公共空間の家具開発 (教育施設) ・ 光造形システムの利活用技術研究 ・ 高齢者に対応する生活道具の開発研究 ・ 学校給食用磁器食器の試作研究
平成13年度 (2001)	・ 公共空間の家具開発 (学校施設) ・ 成型合板技術に関する調査研究 ・ 共用品 (ユニバーサルデザイン) の開発研究 ー高齢者にも優しい生活道具ー ・ 高齢者用食器の開発
平成14年度 (2002)	・ 品質の向上に関する研究 ・ マーケティングに関する研究 ・ 品質試験マニュアルの作成
平成15年度 (2003)	・ 旭川家具コーディネート事業 ・ コンピュータ利用技術開発
平成16年度 (2004)	・ 旭川家具・建具ブランド化事業 (旭川家具などの品質基準に関する調査研究) ・ 小家具・小木工品企業のデザインパイロット事業 ・ 和みの生活提案
平成17年度 (2005)	・ 小家具・小木工品企業のデザインパイロット事業 (ギフト商品に関する研究開発) ・ 旭川家具・建具のブランド化事業 (旭川家具などの品質基準に関する調査研究: 部材性能の研究開発事業) ・ 「しきり」の開発事業 ・ 和みの生活提案

2. 製品開発状況

(1) 家具関係 (昭和60年以降記載)

年 度	製 品 名	点 数	主 材 料	参 考 出 品 展 示 会
60	学童用セット	12	シカバ・カマツ	第31回旭川木工祭
	リビング・ダイニングセット	20	シラカバ	第3回北国の創作家具展
	リビング・ダイニングセット	14	シラカバ	第34回旭川家具建具新作展
61	オフィスセット他	17	シラカバ	第32回旭川木工祭
	オフィスセット他	20	シラカバ	第4回北国の創作家具展
	リビング・ダイニングセット	17	ニレ	第35回旭川家具建具新作展
62	ロビー用家具	8	シラカバ	第33回旭川木工祭
	ロビー用家具他	11	シラカバ・陶器	第5回北国の創作家具展
	襖家具・壁家具他	9	シラカバ・ニレ	第36回旭川家具建具新作展
63	高齢者用家具 (ソファ・小椅子他)	8	ニレ	第34回旭川木工祭
	高齢者用家具 (ソファ・ベッド他)	10	シラカバ	第37回旭川家具建具新作展
元	高齢者用家具 (ダイニング用椅子他)	6	シラカバ	第35回旭川木工祭
	高齢者用家具 (ソファ・柵他)	9	ニレ	第38回旭川家具建具新作展
2	小椅子他	10	ナラ他	国際家具デザインフェア旭川'90 企業展 (第36回木工祭)
	高齢者用家具 (椅子・柵)	12	ナラ	第39回旭川家具建具新作展
3	リビング用家具	11	ナラ	ANIC40旭川新作展
5	小椅子	5	ナラ他	国際家具デザインフェア旭川'93 企業展
	可動式カウンターテーブル	1		
6	据え付け家具 (布団筆筒・書棚 デスク)	2	キリ	
	小椅子	3	ナラ	
7	ベンチ「HAT BENCH」	1	ナラ	国際家具デザインフェア'96 コンペ入選
9	子供用家具 (デスク・椅子・ベッド)	9		ANIC46旭川新作展
	家庭用屋外家具 (椅子・テーブル・ ベンチ・プランツ置フェンス)	4	エゾマツ	〃
10	居間収納 (リビングボード)	1	マカバ	
	—拡張式—			
	〃 (シェルフA) —ユナ兼用—	1	ナラ・一部メープル	
	台所収納 (シェルフB) —折りたたみ式—	1	ナラ	
	間仕切り収納 (パネルラック)	1	ナラ	
	玄関収納 (シューズラック)	1	ナラ・一部メープル	
	オールラウンド収納 (シェルフB)	1	ナラ	
11	空港用ベンチ (Type1)	1	ナラ	
	〃 (Type2)	1	カバ	
	〃 (Type3)	1	成型合板	
	高齢者用家具 (椅子)	7		
	〃 (テーブル&照明スタンド)	1		
	〃 (ウォーキング・マシン)	1		

12	教室用机椅子	1	アルミフレーム	ANIC49
	〃	2	木製	〃
	〃	2	スチールフレーム	〃
	オープンスペース	1		〃
	パソコン教室用家具(テーブル類)	4		〃
	〃 (収納家具)	6		〃
	図書用家具(書架)	2		〃
	〃 (テーブル)	1		〃
	〃 (椅子)	1		〃
	高齢者用家具(椅子)	12		旭川市工芸センター2Fショールーム
	〃 (ワゴン)	1		工芸まつり
13	〃 (テーブル)	2		
	高齢者用家具(肘掛け)	1		
	特殊学校用家具(一人用昇降テーブル)	1	ナラ、積層合板	
	〃 (独立昇降テーブル)	1	〃	
	〃 (書見スタンド)	1	〃	
	〃 (奥行傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (奥行2段傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (側方傾斜ワゴン)	1	〃	
	〃 (座机)	1	ナラ、ラバー合板	
	〃 (姿勢保持椅子)	1	〃	

(2) 建具・小木工品・窯業関係(昭和60年以降記載)

年 度	製 品 名	点 数	主 材 料	参 考 出 品 展 示 会
60	パーソナルギフト	7	エゾマツ	第33回全国試験場作品展
	テーブルウェア	16	エゾマツ他	第29回旭川秀作民芸品展
	耐熱食器他	29		第8回旭川窯元陶芸展
61	テーブルウェア	16	シラカバ・エンジュ他	第34回全国試験場作品展
	テーブルウェア	16	シラカバ・エンジュ他	第30回旭川秀作民芸品展
	陶器(花瓶・盛器)	18		第9回旭川窯元陶芸展
62	小物家具(和風)	16	シラカバ	第35回全国試験場作品展
	陶器(花瓶・焼徳利他)	17		第10回旭川窯元陶芸展
63	コーヒーカップ他	16	ナラ・陶器	第11回旭川窯元陶芸展
	テーブルウェア(箸置他)	16	エンジュ	'89あさひかわ木のモノ民・工芸品展
元	陶器(壺・花瓶・皿)	8		第12回旭川窯元陶芸展
	ハンガー・お盆他	8	ナラ・ウォールナット	'90あさひかわ木のモノ民・工芸品展
	コーヒーカップ他	10		第26回陶磁器試験研究機関作品展
2	溶射技術による壁面タイル他	10		第13回旭川窯元陶芸展
	パーティー容器	17	シラカバ他	'91あさひかわ木のモノ民・工芸品展
	建具技術を用いた小家具 (座椅子・座卓他)	6	ニレ・シラカバ	

3	陶器 建具技術を用いた小家具 (スタンド・吊棚他)	28 6	マツ・ナラ	第14回旭川窯元陶芸展
4	室内木製気密建具 小箱他	30	マツ シラカバ	'93あさひかわ木のモノ民・工芸品 展
12	学校給食用食器 (飯碗) " (汁碗) " (大皿) " (小皿)	1 1 1 1	磁器 " " "	
13	高齢者用食器 (リップ付き中鉢・小鉢) " (リップ無し小鉢) " (傾斜中鉢) " (方変形大鉢) " (両変形大鉢)	2 1 1 1 1	陶器 " " " "	



ミニフィンガー接合

3. 技術指導

企業の求めに応じ、企業実体及び生産現場に即した技術・設備管理計画等について次のとおり指導を行っている。

(単位：件数)

内容 年度	木材加工	接着接合	木材人工乾燥	デザイン	材料強度	塗装	生産管理	コンピュータ関連	品質・性能等に関する指導 (Mマーク・JIS等)	その他 (特許・加工過程・研究支援等)	窯業	計
60	77	62	56	46	39	36	2				42	360
61	64	38	51	23	36	20	2				33	267
62	62	35	49	44	37	17	2	8			32	286
63	69	31	59	44	36	19		24			31	313
元	38	28	13	24	27	10	5	9	1		25	180
2	22	46	8	20	41	9	7	4			23	180
3	19	13	4	10	58	1	2	11			27	145
4	23	45	4	11	26	10	5	21			33	178
5	54	19	2	5	25	7		14			26	152
6	21	12	5	31	51	2		14			30	166
7	13	15	2	19	59	5		15	16		61	205
8	22	6	5	23	30	4		17	19		23	149
9	29	15	18	23	59	12		44	33		25	258
10	35	2	4	28	28	3		61	3		11	175
11	22	5	2	7	33	2		68	8		15	162
12	16	6	4	13	1	5		56	37		8	146
13	16	3	1	3	9	2		65	111	23	17	250
14	16	10	4	12	4	10		61	81		24	222
15	22	1	1	2	8	4		31	121		20	210
16	43	9	1	8	19			18	62	6	25	191

4. 実態調査

企業の経営指標、原価構成比率、経営者の意向等を調査し、業界を把握し情報として提供すると共に、当所事業への反映に努めている。

(旭川市工芸センター調べ) 単位：億円

調査年度	木製家具製造業		木製建具製造業		小木工品製造業		窯業	
	調査対象企業数	販売額(推定値)	調査対象企業数	生産額(推定値)	調査対象企業数(内企業実数値)	生産額(推定値)	調査対象企業数	生産額(推定値)
S60	76	311	89	35.3	54 (82)	15.5	12	5.8
61	52	318	25	36.8	57 (82)	14.8	13	4.6
62	60	324	46	38.6	57 (85)	15.4	13	3.9
63	41	348	78	41.0	64 (101)	16.7	14	3.6
H元	33	369	29	46.9	41 (102)	17.4	11	3.8
2	47	400	50	57.5	52 (91)	17.7	13	3.1
3	45	437	29	53.5	40 (91)	18.5	12	3.5
4	51	440	28	51.1	23 (90)	19.3	15	3.8
5	49	433	-	-	-	-	15	4.4
6	48	393	75	55.8	28	19.0	23	4.4
7	45	371	-	-	-	-	-	-
8	41	341	-	-	-	-	-	-
9	77	359	70	56.8	60 (80)	16.5	44	5.3
10	51	362	69	49.6	121 (124)	17.6	67	4.7
11	-	-	-	-	-	-	-	-
12	122	279	70	41.3	83 (110)	15.9	43	5.0
13	111	240	62	41.2	-	-	-	-
14	107	227	58	34.1	65 (81)	13.1	65	4.0
15	46	210	56	32.9	-	-	-	-
16	107	183	53	32.5	60 (74)	12.2	65	2.8
17	104	173	53	32.7	-	-	-	-

*生産額等(推定値)は、調査対象企業の前年分の販売額、生産額を元に、全体の生産額等を推定した数値です。

5. 研修会

近代的企業感覚と総合的技術をそなえた人材を養成するため、企業の従業員を対象として技術技能の基礎知識及び応用技術、経営感覚等について実践を中心に研修会を行っている。

(単位：回数)

年 度 内 容	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
木 工 技 能	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1
幹 部 技 術 者	10	11	8	7	10	10	10				
木 工 技 術	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
管 理 監 督 者	1	2	2	2	2	2	2	1			
木彫技能協議会	1										
先 進 地 視 察		1	1			1	2		1	1	
C A Dセミナー				1							
家 具 技 術					1						
デザイン開発					2				1		
溶射技術活用実地						1					
小木工品デザイン							1	1			
小木工品開発								2	2		
小木工品開発実地									15	7	6
商 品 開 発									2		
商 品 開 発 実 地								7	6		
椅子開発技術										10	
窯 業 技 術	3	2	3	2	3	3	2	3	3	3	3
計	21	22	20	19	24	23	23	20	36	27	15

年 度 内 容	8	9	10	11	12	13	14	15	16
木 工 技 能	1	1	1						
生 産 ・ 管 理			4	1	9	4	15	5	
技能士養成(脚物)			14			15			
技能士養成(箱物)			10						
製品開発への光造形技術			2	1	1				
コーティング強度試験方法								1	
木 材 加 工 技 術	10	10							
レーザー彫刻システム利活用				2	1				
品 質 の 向 上							5		
作 業 改 善							2		
小木工品開発実地	1								
工 程 管 理 実 地	2	3							
建具製造・流通動向									1
窯 業 技 術	5	10	4			5	5	5	5
計	19	24	35	4	11	24	27	11	6

6. 講習会

各種技術のレベルアップを図るため、企業の現況及び将来的課題に即したテーマを取り上げて、当所が取組んだ試験研究成果をもとに講習会を行っている。

(単位：回数)

年 度 内 容	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
デザイン	1										
塗装技術	1	1	1	1	1	1		1	1	1	
商品開発	1	1	2	1	1	1	1	1	1		
研削技術	1										
接着技術	1	1	1	1	1	1			1	1	1
クラフトデザイン	1	1	1	1							
技術普及	1	1	1	2	1	1			1	1	2
建具技術	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
家具デザイン		1	1	1		1	5				
木彫民芸商品開発			1			1					
先端技術				1	1	1	1	1	2	2	1
小木工品デザイン				1	1	1					
品質管理							1				
木材乾燥								1		1	
窯業技術	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2
市民陶芸	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	6
計	21	20	22	23	20	22	22	19	20	20	12

年 度 内 容	8	9	10	11	12	13	14	15	16
技能検定					2				
商品開発			2						
クラフトデザイン					1				6
椅子開発		1							
化学物質過敏症(接着編)						1			
化学物質過敏症(塗装編)						1			
塗装講習会(自然塗料編)									1
木製品の製品性能試験等に関する									1
窯業技術	4	2		1	1				1
市民陶芸							6	6	6
計	4	3	2	1	4	2	6	6	15

7. 展示会支援

家具・建具、小木工品、窯業の分野において各企業が商品開発を高め合い、新製品の紹介を通じて旭川産品の販路拡大を図る各種展示会の開催及び運営支援、当所試作品の参考出品等を行っている。

(単位：企業数)

内 容 \ 年 度		60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
家具・建具	旭川木工祭	36	35	31	34	35	31	36	42	39	45	43
	A N I C 旭川新作展	31	33	32	34	32	36	34	35	43	45	40
	北国の創作家具展	32	29	29								
	東京国際家具見本市(参加)			10		11		8		8		10
	MAKROS北海道家具展				59	54	41	35				
	国際家具デザインフェア						31			45		
小木工品	旭川秀作民芸品展	24	20									
	北海道秀作民芸品展	13	12									
	旭川工芸展		21	17	16	21	20			19	20	10
	あさひかわ木のモノ民・工芸品展				23	25	23		24	29	17	18
	北海道グランドクラフトフェア				43	44			28			
	旭川クラフト展						102			105		
窯業	旭川窯元陶芸展	7	8	9	7	9	8	8	8	9	8	9
	道北陶芸フェスティバル											85

内 容 \ 年 度		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
家具・建具	旭川木工祭 MAKROS		39	33	37	33	32	32	32	32	30
	旭川・工房家具展				7						
	旭川家具EVOLUTION in東京				20						
	旭川家具横浜展						45	17	17		
	旭川家具東京展									21	
	A N I C 旭川新作展	36	39	34	38	32	30	31			
	旭川家具コレクション								17	29	
	東京国際家具見本市		11		7						
木彫・クラフト	国際家具デザインフェア	37			37			32			30
	旭川クラフトin広島		41		43						
	旭川工芸市場					20	45				
	旭川匠の技工芸展					40					
	旭川工芸展	33	24								
	旭川クラフト展	46			40			50			39
	旭川のクラフト展			17							
	旭川クラフト'99				20						
窯業	旭川工芸デザイン協会展 in FUMIKI					22	21				
	東京インターナショナル・ギフト・ショー			10			9			7	
	クラフト in 東京					22					
窯業	旭川窯元陶芸展	10									
	旭川陶芸フェスティバル		123	100	104	118	118	116	129	137	147

8. 依頼業務・機械使用

(単位：件数)

内 容 \ 年 度	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
試 験 分 析	46	22	19	16	33	41	45	45	57	48	63
木 材 乾 燥	6	9	6	6	5						
刃 物 研 磨	16	9	11	4	5	1					
木 材 加 工		1	1	1							
工 芸 品 制 作							35	30	28	25	16
設 計 図 案 の 調 整	7		2				2	2			
NCプログラム図面調整											
輸出品デザイン検査			15	18	19	20	31	35	16	16	11
Mマーク認定工場審査								1	1	1	
機 械 使 用	548	678	573	640	604	420	383	291	244	204	141

内 容 \ 年 度	8	9	10	11	12	13	14	15	16
試 験 分 析	25	48	27	173	231	219	250	247	154
工 芸 品 製 作	10								
N C デ ー タ 分 析		11	9						
輸出品デザイン検査	12								
機 械 使 用	58	130	159	520	517	459	576	733	763



昭和 12 年頃 藤野宗七氏が使用した手まわしロクロ（板東光雄殿寄贈）

9. 技能五輪大会

技能五輪大会（北海道・全国・国際）の目的は企業に於ける若年技能者の技術習得意欲の増進と、技能水準の向上をはかることであり、本市の基幹産業である家具装備品製造業における技能者の養成には特に力を注いでいるところであり、当所としては、例年、出場者を対象に短期の受入強化研修の実施成果をあげている。

(1) 技能五輪全国大会出場者（家具部門）

開 催 年	出 場 者 氏 名	企 業 名	順 位	開 催 地
昭和39年5月	藤 原 悟	横 幕 建 具	4	東 京 都
昭和40年5月	田 中 勲	須 和 建 具		〃
昭和41年5月	桑 原 義 彦	山 際 家 具	2	〃
昭和41年5月	今 北 秀 雄	東 光 産 業		〃
昭和42年5月	桑 原 義 彦	山 際 家 具	優 勝	〃
昭和43年5月	吉 田 幸 男	白 井 家 具		〃
昭和43年5月	梶 間 博	山 際 家 具		〃
昭和44年5月	梶 間 博	〃	3	〃
昭和44年5月	吉 田 幸 男	山 室 木 工	優 勝	〃
昭和45年5月	中 村 勝 男	〃	5	〃
昭和46年5月	西 田 和 男	田 中 成 型	2	〃
昭和46年5月	横 山 幸 広	明石木工製作所	4	〃
昭和47年5月	大 門 嚴	山 際 家 具		〃
昭和48年5月	大 門 嚴	〃	優 勝	〃
昭和49年5月	吉 村 純 一	〃	5	〃
昭和49年5月	星 幸 一	(株)インテリアセンター		〃
昭和50年5月	吉 田 秀 樹	明石木工製作所	2	〃
昭和50年5月	阿 部 和 男	〃		〃
昭和51年5月	管 野 峰 夫	山 際 家 具	2	〃
昭和52年5月	管 野 峰 夫	〃	優 勝	〃
昭和53年5月	栗 本 勝	〃		〃
昭和54年5月	但 野 勝 夫	〃	3	〃
昭和55年5月	管 野 誠	〃		〃
昭和56年5月	野 地 栄 光	〃		〃
昭和57年5月	福 島 克 定	〃	優 勝	〃
昭和58年5月	三 浦 和 夫	(株)匠 工 芸		〃
昭和59年5月	柴 田 春 雄	〃	5	〃
昭和59年5月	三 浦 和 夫	〃	3	〃
昭和61年	小 林 守	〃	2	東京都・千葉県
昭和62年	小 林 守	〃	優 勝	〃
平成 3年	杉 本 憲 彦	(株)インテリアセンター	4	〃
平成 6年	佐 藤 篤	道立旭川高等技術専門学院	3	富 山 県
平成 7年	桜 井 邦 昭	(有)インテリア北匠工房	優 勝	東京都・千葉県
平成 7年	稲 川 ゆき子	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	〃
平成 8年	井 上 勝 人	(有)山田工作所	優 勝	島 根 県
平成 9年	小 林 健 二	〃	2	東京都・千葉県
平成10年	川 上 博 美	(株)コサイン	3	群 馬 県

平成11年	川 上 博 美	(株)コサイン	優 勝	静 岡 県
平成12年	木 村 亮 三	道立旭川高等技術専門学院	優 勝	埼 玉 県
平成12年	本 江 進	旭 三 商 事	銀 賞	//
平成12年	傳 里 聡	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	//
平成13年	傳 里 聡	(有)グレイン	3	福 島 県
平成13年	松 本 慶 太	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	//
平成14年	山 仲 結	三浦室内工創	銀 賞	熊 本 県
平成14年	青 木 研 二	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	//
平成14年	目 黒 未 樹	//	敢闘賞	//
平成15年	原 弘 治	//	金 賞	新 潟 県
平成15年	川 崎 俊 幸	//	銀 賞	//
平成15年	前 田 英 次	//	銀 賞	//
平成16年	多 田 吉 宏	(有)山田工作所	敢闘賞	岩 手 県
平成17年	庄 司 卓 磨	道立旭川高等技術専門学院	敢闘賞	山 口 県

(2) 技能五輪全国大会出場者 (建具部門)

開 催 年	出 場 者 氏 名	企 業 名	順 位	開 催 地
昭和58年	福 井 敏 文	武山建具産業	4	東 京 都
昭和59年	福 井 敏 文	//	2	//
平成 6年	三 嶋 正 美	(株)児玉製作所	3	富 山 県
平成 8年	田 中 康 則	太陽工業(有)	2	島 根 県
平成 8年	大 嶋 悦 生	石黒建具工芸(有)	敢闘賞	//
平成 9年	松 田 康 男	(株)児玉製作所	敢闘賞	東京都・千葉県
平成13年	千 葉 修 司	//	銅賞	福 島 県
平成13年	篠 永 晃 一	太陽工業(有)		//

(3) 技能五輪国際大会出場者 (家具部門)

年 度	氏 名	企 業 名	順 位	開 催 国
昭和42年	桑 原 義 彦	山 際 家 具	2	スペイン
昭和44年	吉 田 幸 男	山 室 木 工	5	ベルギー
昭和48年	大 門 嚴	山 際 家 具	3	西ドイツ
昭和52年	管 野 峰 夫	//	6	オランダ
昭和57年	福 島 克 定	//		スペイン
昭和62年	小 林 守	(株)匠工芸	7	オーストラリア
平成 9年	井 上 勝 人	(有)山田工作所		スイス
平成13年	木 村 亮 三	(株)インテリアナス	18	韓国

*技能五輪関係は、北海道職業能力開発協会からの資料提供

第4部 職員の異動状況

職 名	氏 名 (旧姓)	勤 続 期 間		現況または転出先
		転 入	転 出	
技 術	松 倉 定 雄	S30. 4	S42. 10	退職 元北海道東海大学教授 (故人)
" (窯業)	板 東 国 光	S30. 4	S46. 3	退職 長沼町, 雪炎窯 (故人)
"	伊 藤 忠 雄	S30. 4	S39. 2	退職 (故人)
" (窯業)	高 橋 武 志		S48. 3	退職 自営溪雪窯 (故人)
事 務	本 城 政 次	S30. 4	S39. 4	退職
"	打 田 瀨	S30. 4	S47. 10	退職
技術 (窯業)	板 東 光 雄	S30. 4	S30. 9	商工部経営指導課 自営かしわ窯
" (窯業)	吉 田 時 彦	S30. 4	S37. 7	退職 自営北窓窯
"	竹 沢 秀 夫	S31. 10	S47. 10	自営 (株)西脇工創取締役
"	中 島 進	S31. 10	H 5. 3	退職
事 務	竹 沢 啓 子 (石場)	S32. 4	S33. 10	旭川市教育委員会学校教育部総務課
"	加 藤 国 子 (鈴木)	S33. 10	S34. 10	退職
"	西 館 節 子	S34. 10	S35. 1	退職
技 術	加 藤 勉	S35. 1	H 6. 3	退職
事 務	川 口 日出男	S35. 1	H11. 3	退職
技 術	木 村 正 紀	S35. 1	H 9. 3	退職
"	生 田 道 晴	S35. 1	S50. 7	退職 北海道東海大学
"	稲 葉 寿 雄	S35. 1	H 3. 3	退職
"	關 谷 武	S35. 1	H 8. 3	退職
"	佐 藤 利 夫	S35. 1	S47. 10	退職 北海道東海大学
"	田 中 宏 幸	S35. 1	H 7. 3	退職
"	立 花 マサエ	S35. 1	S45. 2	(故人)
事 務	大 橋 典 子	S35. 1	S36. 4	市民部市民課市民第一係
業 務	松 村 正 義	S35. 1	S53. 10	(故人)
事 務	小 田 京 子 (守谷)	S35. 4	S37. 5	退職
"	斉 藤 松 子	S36. 5	S38. 8	市民部婦人青少年室長
"	新 谷 文美夫	S36. 5	H 1. 3	退職
"	斉 藤 繁 雄	S36. 9	H 2. 3	退職
"	植 山 勢 子 (丸田)	S36. 9	S40. 4	市民部保険年金課
"	宮 川 万里子	S37. 5	S39. 11	市民部東旭川支所市民係
技 術	石 黒 勉	S38. 4	S55. 11	財政部管財課取得係主査
"	井 藤 健三郎	S38. 4	S42. 1	退職
"	真 鍋 茂	S39. 4	S51. 11	退職
"	布 施 舜 司	S39. 6	H 5. 3	退職
事 務	松 木 喜一郎	S39. 5	S44. 6	総務部管財課

事務	丸谷 芳夫	S39. 11	S42. 4	(故人)
技術	勝田 彰二	S40. 4	S44. 6	退職
事務	安田 啓子	S40. 5	S41. 4	退職
技術	古沢 富志雄	S40. 5	S52. 12	職業訓練大学校
事務	植山 勢子	S41. 5	S47. 4	福祉部福祉課福祉相談係
〃	阿部 冥裕	S42. 4	S46. 5	(故人)
技術	長原 實	S42. 11	S43. 9	退職 (株)カンディハウス
事務	工藤 富雄	S44. 1	S47. 4	退職 O・A・S株式会社
〃	大内 醇一	S44. 7	S52. 5	退職
技術	近藤 均	S44. 9	S45. 3	退職
〃	田中 重充	S44. 9	H 7. 3	商工部工業課産業デザイン係
〃	渡辺 昇	S46. 4	H 4. 3	企画調整部企画課調査係
〃	中西 敏	S46. 4	S47. 3	退職
〃 (窯業)	坂東 成光	S46. 4	H10. 3	社会教育部旭川末広公民館
事務	神谷 高次	S46. 7	S52. 12	会計課経理係主査
〃	松木 喜一郎	S47. 5	S48. 4	環境部東清掃事業所長
〃	山崎 園枝	S47. 5	S49. 4	農政部畜産課畜産経営係
〃	井澤 敬子		S48. 9	退職
技術	◎ 山田 克己	S48. 5	-	現職 所長
〃 (窯業)	◎ 品田 則章	S48. 5	-	現職 技術開発係主査
事務	浅香 隆平	S48. 5	S51. 5	衛生部次長
〃	大西 秀二	S48. 5	S52. 5	水道部営業課計量係
〃	中井 啓二郎	S48. 8	H 2. 3	社会教育部旭川市青少年科学館業務係
〃	玉井 芳枝	S49. 5	S51. 5	神楽支所市民係
技術	◎ 堀川 邦男	S49. 5	-	現職 副所長
〃	◎ 加藤 光一	S51. 4	-	現職 技術開発係主査
事務	西野 重夫	S51. 5	S56. 1	衛生部健康管理課長
〃	中田 良好	S51. 5	S55. 12	財政部納税課税制係
〃	茂木 英治	S52. 6	S56. 11	旭川つつじ学園副園長 (故人)
技術	◎ 及川 俊樹	S52. 7	-	現職 技術開発係主査
事務	小杉 一夫	S52. 12	S54. 5	福祉部社会課近文生活館長 (故人)
〃	中瀬 博志	S53. 4	S54. 6	商工部商工振興課工業係
技術	大谷 卓史	S53. 4	H 8. 3	企画調整部調整課調査係
〃	今野 良英	S54. 6	S58. 6	土木部道路管理課道路管理係
事務	古田 辰雄	S54. 6	S61. 3	社会教育部社会教育課文化振興係
〃	西池 勲	S55. 3	S56. 7	旭川市向陵小学校
〃	大村 恵美子	S56. 2	S60. 3	建築部住宅課管理係
〃	村田 昭三	S56. 7	S58. 6	環境部清掃施設課忠和清浄所
〃	白米 恒夫	S56. 11	S61. 3	会計課

技 術	西 田 光 男	S58. 6	H 3. 3	都市建設部用地課用地第1係
事 務	笠 原 敏 子	S60. 4	S62. 3	退職
"	佐 藤 淳 一	S61. 4	H 7. 3	退職
"	長 瀬 英 一	S61. 4	H 2. 3	退職
"	石 前 ひさ子	S62. 4	H 2. 3	総務部管理課車両係
"	鴨 川 友 栄	H 2. 4	H 7. 3	退職
"	金 丸 和 雄	H 3. 4	H 4. 3	財政部納税課収納管理係
"	亀 井 勉	H 3. 4	H 6. 3	退職
技 術	渡 辺 顕 久	H 4. 4	H13. 3	建築部住宅課市営住宅係
事 務	山 田 耕 司	H 4. 4	H11. 3	財政部納税課納税第5係
"	茂 呂 多加支	H 4. 4	H 9. 3	衛生部
"	植 山 尚 有	H 5. 4	H 7. 3	退職
"	田 村 哲 也	H 6. 4	H12. 3	市立旭川病院庶務課総務企画係
技 術	◎ 後 藤 哲 憲	H 6. 4	-	現職 技術開発係主任
事 務	九 軒 勝 志	H 7. 4	H10. 3	退職
"	羽佐間 一 憲	H 7. 4	H11. 3	保健福祉部保護第1課保護第2係
"	上 樂 みち子	H 7. 4	H12. 3	退職
技 術	上 田 朋 子	H 7. 4	H10. 3	退職
"	◎ 青 木 繁 尚	H 8. 4	-	現職 技術開発係主任
事 務	長 屋 成 義	H 9. 4	H10. 3	旭川市東鷹栖支所
技 術	◎ 小 関 敬 之	H 9. 4	-	現職 技術開発係主任
事 務	岩 田 和 視	H10. 4	H14. 3	退職
"	宮 本 邦 夫	H10. 4	H12. 3	財政部資産税課資産税管理係
"	坂 本 和 広	H10. 4	H12. 3	環境部廃棄物対策課減量推進係
技 術	大 谷 卓 史	H10. 4	H12. 3	商工部産業振興課産業デザイン係
事 務	伊 藤 克 彦	H11. 4	H12. 3	商工部商業課
"	小 倉 栄	H11. 4	H14. 3	環境部環境対策課環境対策係
"	福 谷 理 夫	H11. 4	H15. 3	都市建設部景観課
"	富 居 香	H12. 4	H17. 3	議会事務局調査課調査係
技 術	田 中 重 充	H12. 4	H16. 3	退職
"	西 村 智 也	H12. 4	H16. 3	水道局料金課料金収納係
事 務	◎ 大 瀧 安 洋	H12. 4	-	現職 技術開発係主任
"	◎ 大 川 和 之	H13. 4	-	現職 事業係
"	◎ 中 村 修 二	H14. 4	-	現職 事業係係長
"	関 口 希	H14. 4	H16. 6	退職
"	川 辺 英 行	H15. 4	H16. 3	商工観光部産業振興課
"	◎ 秋 山 永	H16. 4	-	現職 技術開発係主任
"	◎ 長谷川 香 織	H17. 4	-	現職 事業係

氏名欄◎印現職 平成17年8月現在